3 地域の見守り活動の連携

地域の団体などの活動には、**活動そのものが見守りの効果**を持っていたり、**活動の最中に気付いた参加者の様子**や**いつもは参加するはずの方の姿が見えないなどの変化**を**その他の見守り活動へ情報提供**することで、その見守り活動がよりきめ細やかなものになったりするなど、ふれあい活動と連携すると効果的です。

まずは、お互いの活動内容について**「こんな活動をしているんだ」**と知り、**「この活動となら、連携できるかもしれない」**と検討することが、連携の第一歩です。

そして、様々な見守り活動が網の目のように連携することが、安心して暮らし続けられる地域づくりにつながっていきます。

ふれあい活動と連携できそうな団体の活動例（連携できそうなポイント）

自治会

- 回覧物を利用した見守り
- 盆踊り・敬老の日のような自治会イベント
- 防犯パトロール
- 交通安全教室
- 災害時要援護者への見守り

重要

すべての団体が、記載されている活動を行っているわけではありません。
連携するためには、各団体へ具体的に相談することが必要です。

シニアクラブ

- 友愛活動による訪問や見守り
- 健康づくり活動（グラウンドゴルフ大会、ノルディックウォーク、カラオケ大会など）

民生委員

- 関係機関（区・地域包括支援センターなど）への橋渡し
- 地域で気になる方へ訪問などの支援活動

環境事業推進委員

- 地域清掃や街頭クリーンキャンペーン
- ごみ出し時の分別啓発

保健活動推進員

- 健康づくり活動（健康チェック、ウォーキング、体操教室など）

青少年指導員/スポーツ推進委員

- レクリエーションやスポーツ活動、地区健民祭や運動会
- 地域パトロールやあいさつ運動

家庭防災員

- 地域防災のための訓練や研修、講習会

子ども会

- 子ども対象のイベント

公園愛護会、ハマロードサポーター、水辺愛護会

- 身近な公園、道路、河川の清掃や美化活動

その他、連携できそうな活動やネットワーク例

サロン/食事会

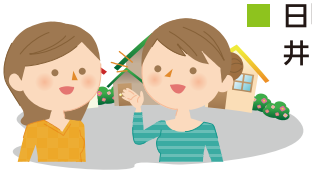
■ 地域交流の場として実施されるサロンや食事会（活動の主体・対象者・担い手は、地区によって様々）

すくすくかめっ子

■ 地域で子育て中の親子が一緒におしゃべりや仲間づくりをする親子のたまり場（活動の担い手は、自治会・民生委員・保健活動推進員など）

集合住宅（マンションなど）

■ 集合住宅（特にオートロックマンションなど）とは情報の共有が難しいケースが多く、日頃から連携することが大変効果的です。



隣近所（向こう三軒両隣）

■ 日頃からのご近所付き合い、井戸端会議などによる情報

ヒント　どうやって、他の団体と連携すればいいの？

他の団体にふれあい活動を理解してもらうためには、どうしたらいい？

➡ ①各団体の会合などでふれあい活動について説明し、特に団体の中核メンバーに活動を理解してもらう。
②自治会の広報など、地区での発行物にふれあい活動の概要や実績などを掲載してPRする。
などが考えられます。

他の団体とふれあい活動が連携する仕組みをつくるためには、どうしたらいい？

➡ ①他の団体のメンバーにも、ふれあい活動の活動員になってもらう。
②団体活動のなかで何か気付いたことや情報をふれあい活動へつなぐ仕組みをつくる。
⇒たとえば…
- ふれあい活動の定期的な情報共有会議に出席してもらい、お互いに情報交換を行う仕組みをつくる。
- 気付いたことや情報をふれあい活動員に伝え、それを聞いた活動員が情報共有会議で、他の活動員と共有することができる仕組みをつくる。

③イベント（主体は地区社協でも自治会でも、誰でもOK）の担い手として、ふれあい活動員や各種団体の皆さんに協力してもらい、『横のつながり』の意識を持ってもらう。
などが考えられます。

集合住宅（マンション）との関係づくりの第一歩は、どんなこと？

特に自治会に未加入の集合住宅については、関係性を築くためのきっかけづくりが難しいとの声も多く聞かれます。

事例　管理組合の総会や定例会議に所在エリアの自治会長が継続的に出席することで、関係性が築かれ始め、ひいては自治会加入につながり、以後は自治会員として様々な情報共有ができるようになった。